



藤堂高虎公の足跡⑥

こう ざん

高山神社

電車…三重交通バス「岩田橋」徒歩5分

車…伊勢自動車道津ICから車で15分

市民に「高山さん」と呼ばれ親しまれている高山神社は、明治10(1877)年に高虎公を祭神として、現在の津偕楽公園内にあった両社八幡神社の境内に建立された。社名は藩祖高虎公の諡号「寒松院殿道賢高山権大僧都」に由来している。

明治34(1901)年には、藤堂家歴代の居城で高虎公に深いつながりがある場所であることから、神社は津城の本丸に移された。しかし、昭和20年7月の戦災で絵馬殿を除き社殿は全焼。現在の社殿は、昭和44(1969)年に戦後復興都市計画記念事業中央公園として「お城公園」が整備された際、現在地に遷されたものである。

社伝によると、高虎公所用の兜かぶとが神宝として奉納されており、高虎公生誕350年記念祭の折に刊行された写真はがきから「唐冠形兜とうかんなりかぶと」であることが確認できる。このほか、高山神社には、合祀された両社八幡神社に文久3(1863)年に伊州名張町(現名張市)の住民から寄進された絵馬がある。この絵馬は、熊本生まれで当時名張在住であった人形彫刻の名手安本光政によるもので、厚さ9cmのケヤキの板に、神功皇后じんぐうこうごうと童子おう(応神天皇じんてんのう)を抱く武内宿禰たけうちすくねの伝説をモチーフとした桜の寄せ木彫りである。藩主の武運と長寿を願う内容の絵馬として見事な作品であり、市の文化財に指定されている。

(「広報津」平成20年10月1日号)

